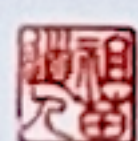
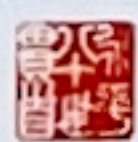


曹洞宗禪文化

特別号

全機大用

祖苗納敬書



吉岡博道老師 追悼集

吉岡博道前会長を偲んで

東京有道会 会長

曹洞宗禅文化の会 会長 田 中 機 一

東京都 善福寺住職

長きに亘り当会・会長を務められました前会長・吉岡博道老師は去る令和二年十月十八日世壽七十九歳を一期として遷化をされました。この報を鈴木潔州副会長より受け、只々驚きと悲しみの中、私は全身より力の抜ける感覚に襲われました。

令和二年一月早々より体調を崩され養生に専念されておられるとお聞きしており、ほどなくお元気な姿を拝見できるものと信じていただけに断腸の思いに堪えません。私が吉岡老師に初めてお会いしたのは自坊であります善福寺に於いて第二回・旧会名「禅文化洞上墨蹟研究会」の結集が開催された時でした。参加者は約二十名、いずれの老師も墨蹟など洞門の禅文化に造詣が深く研修に励み祖師方の禅風を慕っている大徳であり、その中でも吉岡老師は人一倍研究熱心で会場に並べられた多くの墨蹟に一点一点所見を述べられ、また会の運営についても熱心に意見を発せられていた姿が今尚印象に残っております。

それ以来、私は弊師（当会初代会長 田中一義老師）の付き添い役で末席の会員として参加させていただき、以後今日に至るまで老師には一方ならぬご指導を戴き大変お世話になりました。

曹洞宗は「不立文字」「只管打坐」を旨としておりますが、その反面、全国の御寺院には墨蹟をはじめとして多くの貴重な宝物、祖師方の遺物が護持されております。

かつて吉岡老師は「臨済宗に比べ、その豊かな禅文化が一般に広く浸透されていないくらいがあり『釣月耕雲慕古風』の祖語をかみしめ、功を求めず、地道に陰の人となつて宗門文化を掘り出し顕彰し宣揚していきたい」と述べられました。その信念と気概のもと、当会発足当初より様々な特集を組んだ年一回の

会報の発行、春と秋に各地の寺院を拝登した結集、風外慧薫生誕四百五十年に因みその足跡を辿る企画など多くの特別企画を遂行し、更に老師の深い見識を遺憾なく発露した講演会を幾度となく開催して下さいました。また老師は「坐禅」が曹洞宗の根幹であつても、その周辺には墨蹟をはじめ漢詩、茶道、庭園、建築、文学などの芸術が固めているとの思いで旧会名「禅文化洞上墨蹟研究会」を「曹洞宗禅文化の会」と改名し、今では墨蹟を中心としながらも研究活動領域を禅文化一般に広げられました。また混沌とした現代だからこそ禅文化が必要とのお考えの元に長きに亘り当会の運営に精進しお導きいただきました。穏やかな心情の中、常に百尺竿頭の先に一步を進め、当会に多大な功績を残されました。今となつては大樹を失つた思いで非常に残念でなりません。意見を発表する場を設けて下さることに感謝しております。今後の更なるご指導と宗門でのご活躍を願つておりましたが、今は只々洪恩に深謝し大寂定中安からんことを祈念するばかりで居ります。

そして当会各役員事務局員一同、前会長 吉岡博道老師の思志を継ぎ「慕古心」の心情をもつて曹洞宗禅文化の高揚に務めるべく会の運営に臨む所存であります。

この度の『吉岡博道老師追悼集』発行にあたり、曹洞宗管長・大本山永平寺貫首 南澤道人猊下より誌題「全機大用」と御揮毫を賜り厚く御礼申し上げる次第です。

あらためまして茲に吉岡博道前会長老師の御功績と御遺徳を偲び、謹んで『吉岡博道老師追悼集』を奉献させていただきます。

合 掌

師匠の遷化に思う

静岡県 正泉寺住職 吉岡博瑞

(長男)

自分がまだ小学生の頃、父の匂いといえば、お香のかおりと、塔婆を書く墨の匂い、頭を浄髪した時の石鹸の匂い。キラ伊じゃなかった。いつも改良服を着て絡子をして堂々としていて、かつこよくみえた。檀務がない時は、麦わらに作業着で墓そうじ、落ち葉掃きに、草むしりもしていた。父の背中をみて、いつか自分もこうなるのかと思ったが、いまだに、そうならない自分がいる。

今も昔も、父の部屋の中は廊下の外まで、掛け軸の箱と古書や文庫本の山々で足の踏み場もない、庫裡の大半を占領している、これらは整理整頓してほしかった。古書に無関心な私は途方に暮れるしかない。父はパソコンを全く使わなくて、全てが手書きであり、漢詩や手帳などの手記は家族でも読めない。最後までよく自分の人生を貫き通したものだと感じるが、良き父であり良き師匠でした。

師匠の同級生や同安居会の皆様には、本当の家族兄弟のように親しく接して頂き感謝申し上げます。令和二年十月八日、満七十八(世寿七十九)いつもの部屋で、母が背中をさすり、孫たちの笑い声に耳を傾けながら、静かに眠っていきました。私達家族にとって、世界一の父親で、世界一の住職でした。

曹師宗 熱海山 玉泉寺

合掌

目次

吉岡博道前会長を偲んで……………	会長 田中 機一	3
師匠の遷化に思う……………	吉岡 博瑞	5
曹洞宗 熊野山 正泉寺……………	吉岡 博瑞	6
吉岡博道老師 書……………		9
吉岡博道老師 漢詩 『擔雪軒語録』続……………		37
『曹洞禅グラフ』掲載文より……………		50
吉岡博道老師（別号 熊野山人）略歴……………		70
『擔雪軒語録』出版した吉岡博道師 信念と実行、情熱の人……………	吉田 隆法	74
在りし日を偲ぶ……………		77
会報「禅文化洞上墨蹟」第3号より 座談会「墨蹟とのか縁」……………		92
奉 追 悼……………		101
追悼 吉岡博道老兄……………	東 隆眞	102
博道さんに、感謝して （博道さんと、二冊の本と、祝頌と）大谷 哲夫		103
宗門の名物男 吉岡博道老師……………	山口 晴通	106
悼 吉岡博道大兄遷化……………	井上 義臣	107
吉岡博道師を偲んで……………	川口 高風	116
敬悼 正泉寺十八世 吉岡博道大和尚御遷化	角一 覚隆	121
吉岡博道老師との思い出……………	佐々木紀夫	122
追悼！ 吉岡博道老師……………	安達 良元	124
悼吉岡博道大和尚御遷化……………	村上 信道	126
吉岡博道老師を偲ぶ 二祖国師大遠忌での出会い……………	形山 俊彦	128
吉岡博道御老師に深謝……………	松田 薫	130
報恩の想いに溢れて（禅語「随流去」とともに） 追悼詩偈……………	小林 將	134
あとがき……………	鈴木 潔州	144



野火既焼く
春風又吹く
生ず

野火 焼けども尽きず
春風 吹いて 又生ず